

未来の街作り 電動モビリティで二次交通と地域創生

【いわき市・浪江町・川俣町】 × 【(株)マスヒロ】

1 解決したい地域課題

- ・当社の思い： 浜通りにお住いの免許返納者が買い物に行く手段が少ないことや、来訪者についても鉄道の本数が少ないため、駅から駅の移動が容易ではありません。降車後もバスやタクシーも限定的で周遊するのに不便な状況があります。これらを多様な電動モビリティの活用で解決したい。
- ・自治体様：異なる地域の交通課題に対して、多様な電動モビリティで有効性を検証し、将来の街作りに活かす。

2 実証事業の到達目標

- R7年：異なる地域の課題やニーズの深掘り。
住む人や来町者に対して試乗体験やアンケートを実施。
- R8年：街作りに有効なモビリティの実証実験と、
街作りの共創会で実装に向けた検討を重ねる。

MISSION

次世代モビリティ
誰もが楽しめる
社会に役立つ未来の創造

3 実施内容

実証事業

交通課題の解決 / 電動モビリティを活用して移動手段の有効性を検証。
試乗会やモニターツアーの実施。様々なメーカーの異なるモビリティを活用し、地域の課題に応じた有効性を検証。

2輪：電動キックボードや電動サイクル

3輪・4輪：電動モビリティ 歩道用のシニアカーや車道走行用
(速度上限20KMの免許不要車)

新規性

モビリティツアー支援システム(特許庁の実用新案取得)も活用。
安全性と人に寄り添うおもてなしを提供します。

①引率ガイド付

②インカム無線付ヘルメット(全員の意思疎通)

③乗車シーン動画撮影(ドラレコとSNSでPR)



【取組①：いわき市 電動モビリティ 二次交通の有効性検証】

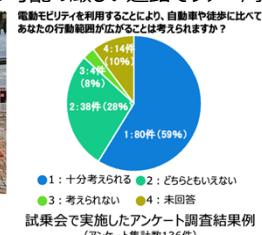
- 市内拠点エリアや観光スポットへの周遊手段の整備等を目指し、電動モビリティのエリア内周遊の可能性を調査。モビリティは電動キックボード・漕がずに進む電動サイクル等、異なる複数のタイプを用いる。

【令和7年度実施内容】

- いわき大物産展(10/18-19) 小名浜港で体験試乗会を実施。
来場者に電動モビリティの理解を深めると共に、利用の可能性をアンケート。
- 市職員と共に観光スポットの三崎公園まで観光ルートを電動モビリティを用いて試走。上り坂の勾配の厳しい道路でツアー周遊の可能性も確認。



いわき大物産展試乗会の様子
(いわき市)



試乗会で実施したアンケート調査結果例
(アンケート集計数136件)



市職員による三崎公園までの
急こう配の登り坂など試走 (いわき市)

【取組②：浪江町 駅西側地区における軽モビリティ導入検証】

未来志向の交通意識、交通生活様式づくりに向けて！

鉄道×モビリティで「ちょっとそこまで」をもっと便利に！

軽モビリティによる通勤体験等を通じて、浪江駅西側地区におけるモビリティの検討や未来志向の交通意識形成に関する実証を次年度に行います。

- ・浪江町市街地整備課と連携
- ・浪江駅西側地区共創会議モビリティのワーキンググループで議論
- ・JRや警察署等のステークホルダーとの擦り合わせ

未来のスマートシティ

多様なモビリティで様々な移動を ラクに 楽しく 安全に



【取組③：川俣町 電動モビリティ二次交通の有効性検証】

町の公共交通に対する課題。バス路線やデマンドタクシーといった公共交通を補完する手段として、**目的地から別な目的地へ生活動線をつなぐ新たな移動方法の確保が、住民の利便性向上や中心市街地の活性化に大きく寄与。**
例えば ①中心商店街内の移動は、バスやデマンドタクシーでは本数が少なく、乗り降りするのが面倒。一度に通院や買い物、美容院などいろいろな用件を済ませたい。②中心商店街を、時間を気にせず自由に行き来したい。③家からバス停まで遠すぎる。バス停まで乗れると良い。

R7年 8月：役場での検討協議と役所関係者での試乗会

R7年11月：オンラインセッション 復興庁・福島大学・東北大学・東京大学

R8年：町内での電動モビリティを用いた実証を予定



4 まとめ (今後の展望)

いわき市：本実証により電動モビリティの機能性や有効性を確認できた。電動モビリティの活用方法については、引き続き見極めていきたい。

浪江町：次年度の実証を通じて軽モビリティの活用可能性が検証され、当町のまちづくり及び地域課題解決に寄与することを期待する。

川俣町：二次交通を導入し、中心市街地の周遊をしやすくすることで、まちの活性化を促し、にぎわいのある町づくりを目指して行きたい。

マスヒロ：真の意味でスマートなまちづくりは、その地域に住む人、訪れる人、子どもからお年寄りまで、それぞれのニーズを満たすモビリティが必要。そのために当社では様々なメーカーの代理店となり、自転車型や4輪タイプなど多種類のモビリティの包括的な提供に加え、地域の課題や機会に合わせた物事やソリューション構築をご支援。

将来は関係人口の増加に向けて、福島県の掲げるホープツーリズム造成も盛り上げたい。

(令和7、8年度実施)